

令和7年度 第1回 菊川市水道料金審議会議事録（議事要旨）

1. 会議概要

会議名	令和7年度 第1回 菊川市水道料金審議会
開催日時	令和7年11月13日（9:30～11:15）
会場	菊川市役所 東館 E302 会議室
出席者	（下記参照）
欠席者	委員：玉澤一雄、清水厚
事務局	菊川市生活環境部水道課

【出席者】

- 委員：佐藤克昭、伊藤博之、森下泰孝、戸塚大輔、寫田翔太郎、中村一秀、井指好美、鈴木恭子
- 市長：長谷川寛彦（冒頭挨拶・諮問、途中退席）
- 市職員：生活環境部長 浅羽淳、生活環境部 連携調整室主幹 岩堀泰央
- 事務局：水道課長 木村良一、庶務係長 小野裕太郎、事業係長 渡邊太吾、係員 平野剛平
- オブザーバー：株式会社白岩設計

2. 配布資料

- 次第
- 委員名簿
- 席次表
- 次回日程調整表
- 第1回審議会資料（事前郵送）
- 投影資料（PowerPoint）（事前郵送）

3. 議事の概要

3.1 開会

事務局より開会。会議録作成等のため録音・撮影を行う旨の説明があった。

3.2 市長挨拶

長谷川市長より、日常生活に不可欠なインフラとしての水道の重要性、施設・管路の維持管理の難しさ、令和4年5月の広域断水対応を踏まえた整備の加速、大井川水系への依存等を踏まえ、今後5年間の水道料金の方向性について多角的な審議を求める旨の挨拶があった。

3.3 委員・事務局等の自己紹介

委員および市職員・事務局より自己紹介が行われた。

3.4 会長・副会長の選任

審議会条例に基づき互選を行い、会長に佐藤委員、副会長に伊藤委員を選任した。

3.5 市長からの諮問

諮問事項は「適正な水道料金の検討について」。市長から会長へ諮問書が手交された。

3.6 議題：菊川市水道事業の現況（事務局説明）

- 審議会設置の目的と試算条件（設置理由及び目的、適正料金試算条件等）
- 水道事業の役割と沿革（水道事業の社会的役割、菊川市水道事業の沿革）
- 水道事業の現況（業務実績、給水区域・水源・施設構成、水質管理等）
- 施設・管路の整備状況、老朽化・耐震化等
- 経営状況（収益・費用、内部留保、企業債、給水原価／供給単価等の指標等）
- 料金体系及び料金水準の背景
- 組織（水道事業管理者及び下位組織）
- 災害対応（被災事例、緊急遮断弁、停電時の対応、応急給水等）
- 課題整理（SWOTによる現状分析）

3.7 質疑・意見（主なもの）

- 水質検査頻度について、残留塩素等は 1 日 1 回、水質基準項目は概ね 3 か月に 1 回、原水は年 1 回など、項目により頻度が異なる旨の説明があった。
- 年間の漏水事故の状況について、年間約 450 件（概ね 1 日 1 件）の事故件数、事故対象管路について説明があった。
- AI による管路劣化診断は、来年度に委託で実施する予定である。布設年度・管種・地形・交通量等を踏まえリスク判定し、更新の優先順位付けに活用する旨の説明があった。
- 停電・災害時は、自家発電設備の稼働や断水時の給水車による応急給水を想定し、不足時は日本水道協会を通じた応援要請も含め対応する旨の説明があった。
- 近隣市町との料金水準の違いについて、受水形態や人口規模等に加え、料金設定は各事業体の判断・算定枠組みによる部分がある旨の説明があった。
- 広域連携（事務の共同化等）の方向性と、料金の一律化とは別の取組である旨の説明があった。また、事務の共同化・共同発注によるコスト低減（窓口関連業務の共同発注等）を進める旨の説明があった。
- 今後の料金改定の見込みについて、平均改定率 9.3%を一つの目安として提示する予定であるが、あくまで計画（仮定）である旨の説明があった。
- 管路の材質（VP 管・ダクタイル鋳鉄管等）や石綿管の有無、更新の優先順位について質疑があり、市内に石綿管はない旨の説明があった。
- 受水に係る契約水量（枠）について、枠の変更は関係先との協議を要し、基本水量相当分は負担（支払い）が必要となる旨の説明があった。

3.8 次回開催等

第 2 回審議会は令和 8 年 2 月の開催を予定し、候補日（2/5、2/12、2/26 の各午後）について事務局から回答依頼があった（回答期限：11 月 28 日）。

3.9 閉会

事務局より閉会。